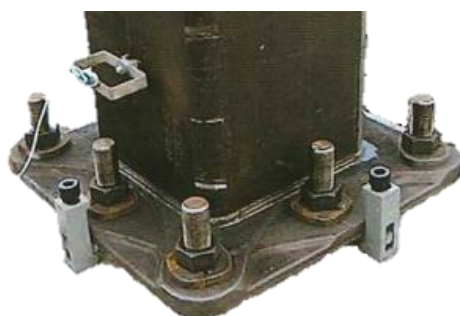


建方ベース
TATEKATA BASE

取扱説明書

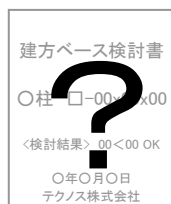
Operation Manual



安全上のご注意（ご使用前に必ずお読み下さい）

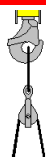
- 建方ベースをご使用になる方や他の人への危害、建方ベース破損防止の上から重要な内容を記載しています。次の内容をよくお読みになり、禁止・注意事項を必ずお守りください。

禁止

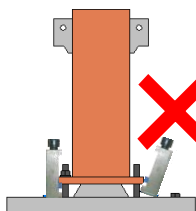


テクノスにて事前検討していない場合や結果NGの場合は、別途転倒防止対策が必要です。

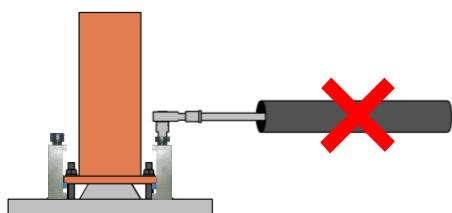
建方ベース自体には、柱転倒防止機能はありません。
本設のアンカーボルト・ベースプレートが強風及び地震に耐えられる強度を有しているか、事前に検討する必要があります。



建方ベース 及び アンカーボルトのナットの締め忘れを確認せずにクレーンを解放しないでください。

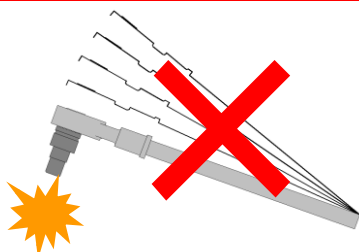


建方ベースの緩みがなく、アンカーボルトのナットが全数入っていることを十分確認した後、クレーンの解放作業を行ってください。

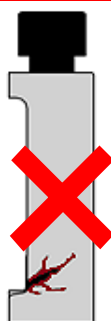


専用工具に単管パイプ等を継ぎ足しての使用は厳禁です。

無理な力を加えると、建方ベースが破損する恐れがあります。



専用工具をハンマー代わりに使用しないでください。



割れ、不具合のある建方ベースは使用しないでください。

ひび割れなどの不具合が生じた建方ベースの使用をやめ、至急テクノスまで連絡願います。

テクノス(株) : TEL 0533-84-1116 または 03-5228-5811

建方ベースを柱の建起し以外に使用しないでください。

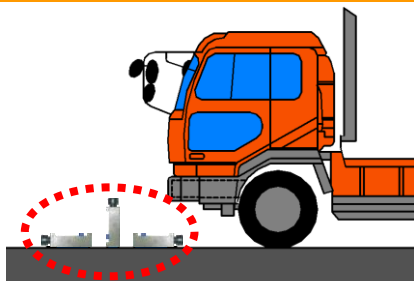
つづき 安全上のご注意（ご使用前に必ずお読み下さい）

△注意

建方ベース検討書
○柱 □-00x00x00
＜検討結果＞ 00<00 OK
○年○月○日 テクノス株式会社

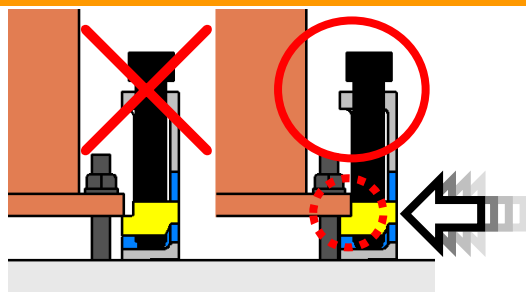
建方ベース検討書にて指定された条件を満たしているか、
確認後使用してください。

マンジュウサイズ、大梁継手の仮ボルト条件など。



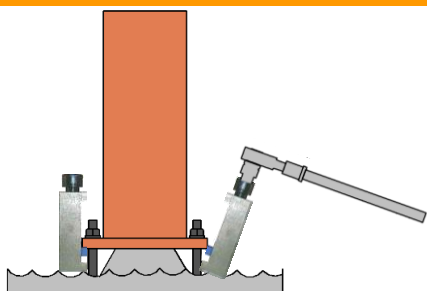
建方ベースを傷付けたり、
破損しないように注意してください。

建方ベースを投げたり、工事車両に踏まれるなど、
破損しないように十分注意してください。



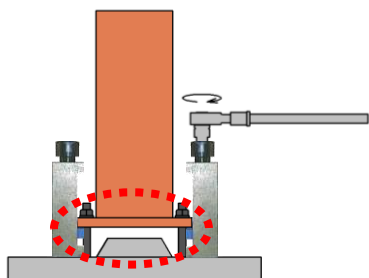
建方ベースのツメを十分奥まで入れてください。

建方ベース操作中に装置が外れる恐れがあります。



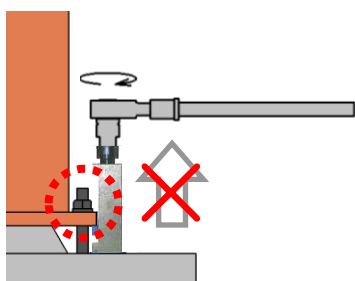
建方ベース設置面に不陸がある場合、装置が外れやすくなります。

不陸が生じないように、コン天を仕上げてください。
やむを得ず不陸のある面で使用する場合は、操作の際に装置が
外れないように、足で押さえながら操作してください。



建方ベースを締め込む際、反対側の装置が緩めてあるか
確認してください。

反対側の建方ベースが緩んでいない状態で締め込むと、柱が浮き上がります。
マンジュウとベースプレートは、必ず1箇所以上接するように管理してください。

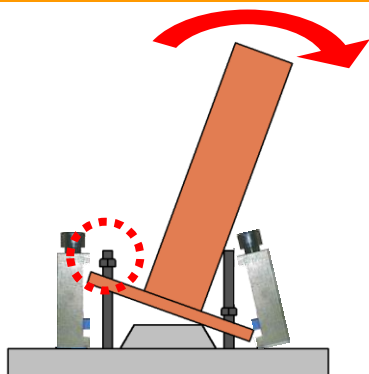


建方ベースを締め込む際、近接するアンカーボルトの
ナットが緩めてあるか確認してください。

アンカーボルトのナットが締まっている状態で建方ベースを締め込むと、
装置に無理な力が加わり、変形・破損する恐れがあります。

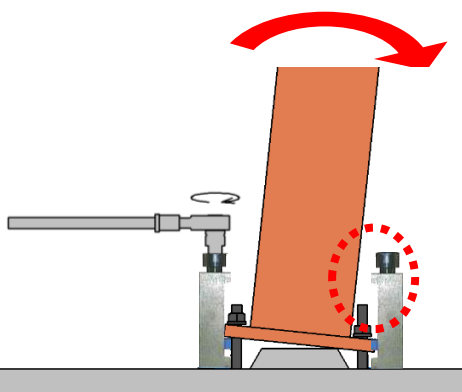
つづき 安全上のご注意（ご使用前に必ずお読み下さい）

△注意



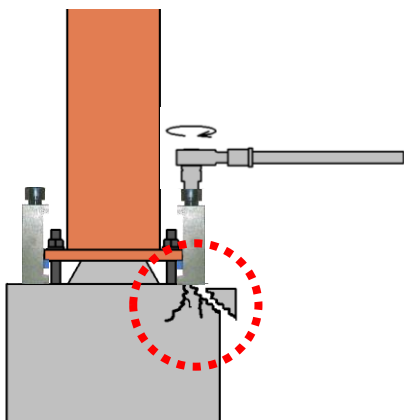
アンカーボルトのナットを過度に緩めないでください。

柱の建て入れ調整中にアンカーナットを緩めすぎると、柱が大きく傾き、場合によっては転倒する恐れがあります。



柱面と建方ベースの間に指を挟まないように注意してください。

柱面と建方ベースが近接している場合、柱の倒れにより柱面と建方ベースの隙間が小さくなり、指を挟む恐れがあります。



突出したRC躯体の際に建方ベースを配置すると、RCが欠ける場合があります。

建方ベースの個数を増やすなど、荷重を分散させるように対応してください。

柱建方前の確認事項

- 強風及び地震を考慮したアンカーボルト・ベースプレートの耐力確認



テクノにて事前検討していない場合や結果NGの場合は、別途転倒防止対策が必要です。

- 鉄骨芯の墨出し
- マンジュウ高さ確認

◆建方ベース仕様

図1

35～80mm (マンジュウ高さ 50mm用)	調整代: 45mm
25～70mm (" 30mm用)	調整代: 45mm
25～80mm (" 兼用使用)	調整代: 55mm

- 建方ベース 設置・操作スペースの確認

◆箱抜き

図2

建方ベースの設置には、ベースプレート端部から約70mm以上の隙間が必要です。
箱抜き及び障害物等による高さが200mmを超える場合は、専用工具の他に
エクステンションジョイント(延長棒)が必要です。

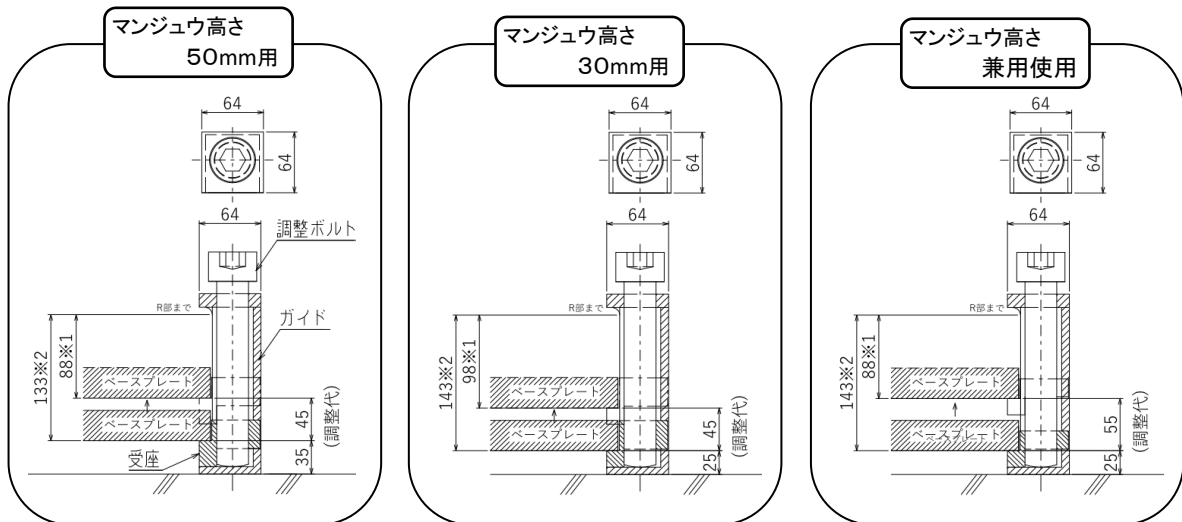
◆鉄筋・腰壁

図1を参考に建方ベースが設置可能か、鉄筋を確認してください。
また、専用工具(P 8～9)にて建方ベースが操作可能か、確認してください。

◆床面の平面状況

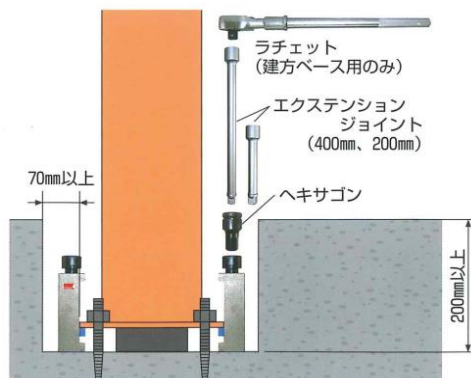
建方ベース設置面に不陸がある場合、装置が外れやすくなります。
装置を足等で押さえながら操作してください。
※著しく凹凸のあるコンクリート面や砂利上など

図1



※1: ベースプレートの板厚が88mm(30mm用は98mm)を超えるような場合は調整代が少なくなります。
※2: ベースプレートの板厚が143mm(50mm用は133mm)を超えるような場合は、干渉するため
事前に連絡をお願いいたします。

図2



※箱抜きがない場合は、エクステンションジョイントは不要となります。



エクステンションジョイント使用により、
最大で800mm(400mm+400mm)までの
箱抜き及び障害物に対応可能です。

柱の建方



図3

💡 必要に応じて、芯墨を確認できる位置でも可能です。

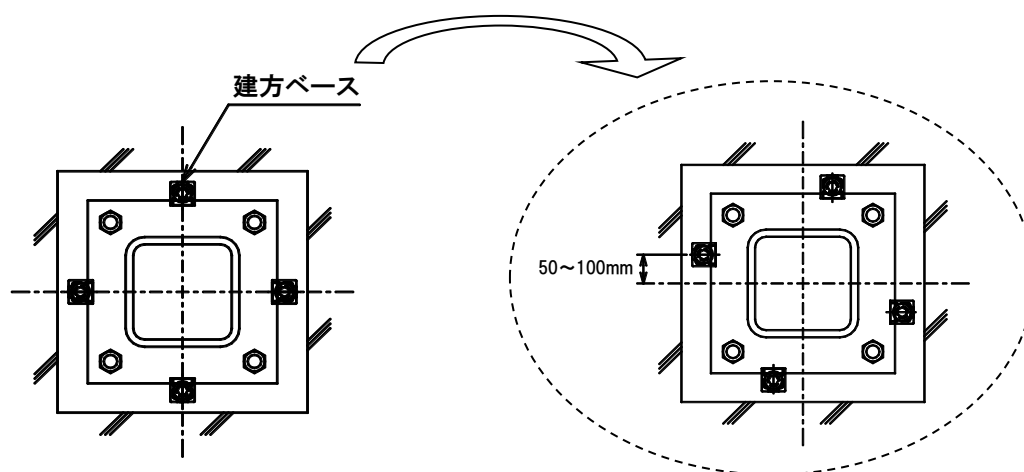
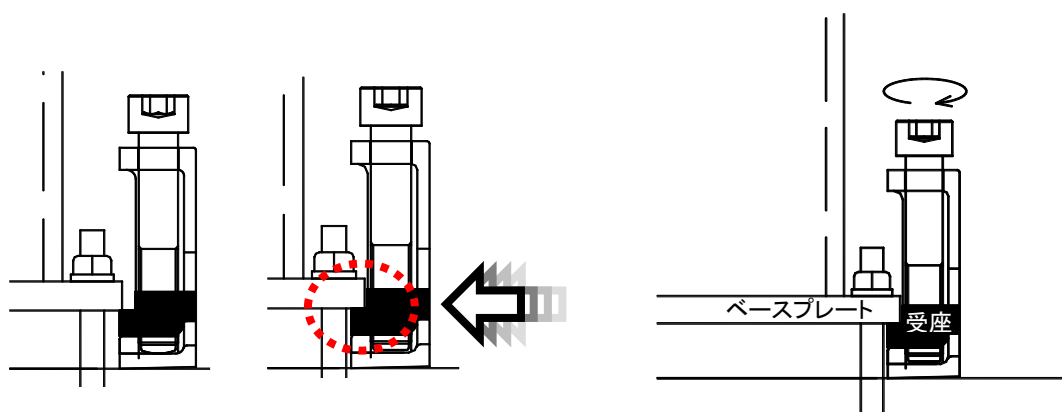


図4



⚠ 注意 建方ベースのツメを十分奥まで入れてください。

⚠ 注意 確実に受座がベースプレート下に当るように調整ボルトを手締めしてください。

柱の倒れ調整（柱単独時）

柱倒れ調整例

X方向調整

①②のナット及び C 建方ベースの調整ボルトを少し緩め
A建方ベースの調整ボルトを締込む 図5



X・Y方向の倒れを確認し、
倒れの大きい方向から
調整を行ってください。



X方向に柱が修正される

調整終了後③④のナット・全ての建方ベースの
調整ボルトを締めて仮固定する 図5



①ナットを過度に緩めないで
ください。
②建方ベースを締込む際、
反対側の装置が緩めて
ある事を確認してください。
※柱が浮き上がります。



Y方向調整

X方向と同様の操作を行う



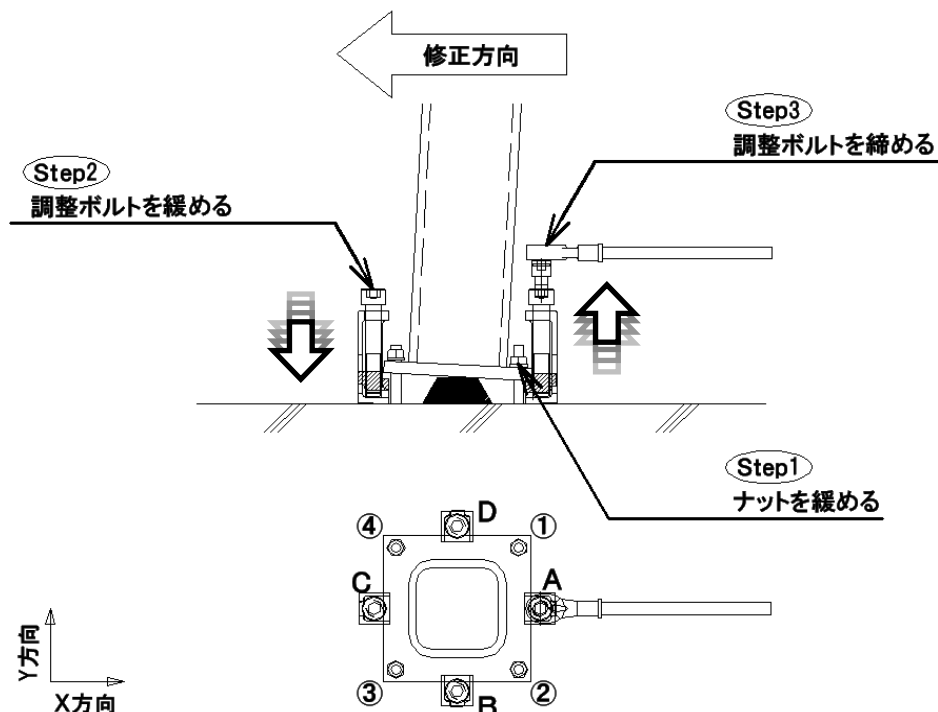
XY両方向調整した後、再度 両方向の計測を行い
必要に応じて微調整する



梁入れ

次のページへ

図5



柱の倒れ調整（梁入れ後）

X方向
調整

C 建方ベースの調整ボルトを少し緩め
③④のナットを強く締める

図6

①②のナットを緩め、建方ベースAを締込む

図6

Y方向
調整

X方向と同様の操作を行う

終了

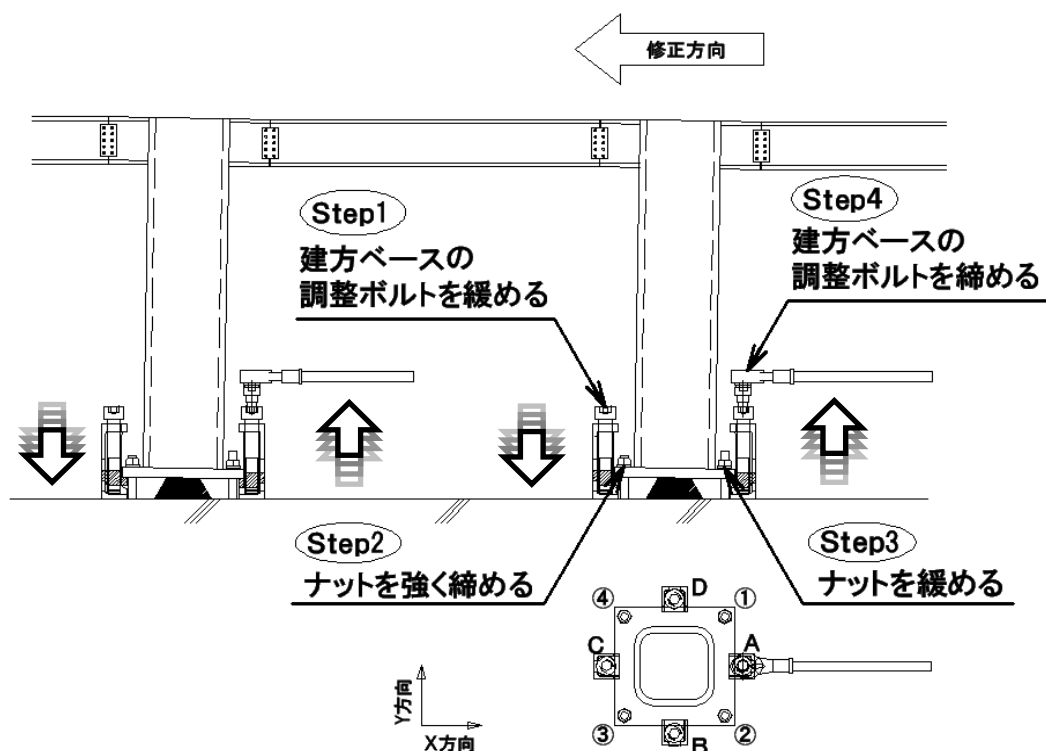
倒れ調整終了後、ナットと建方ベースを均等に負荷させ
固定・保持させる

💡 建方ベース取り外しについて

梁入れ・歪み直しが終了し、全ての
階の大梁本締め後に建方ベースの
取り外しが可能です。

在来工法のワイヤーを外すタイミング
と同様です。

図6

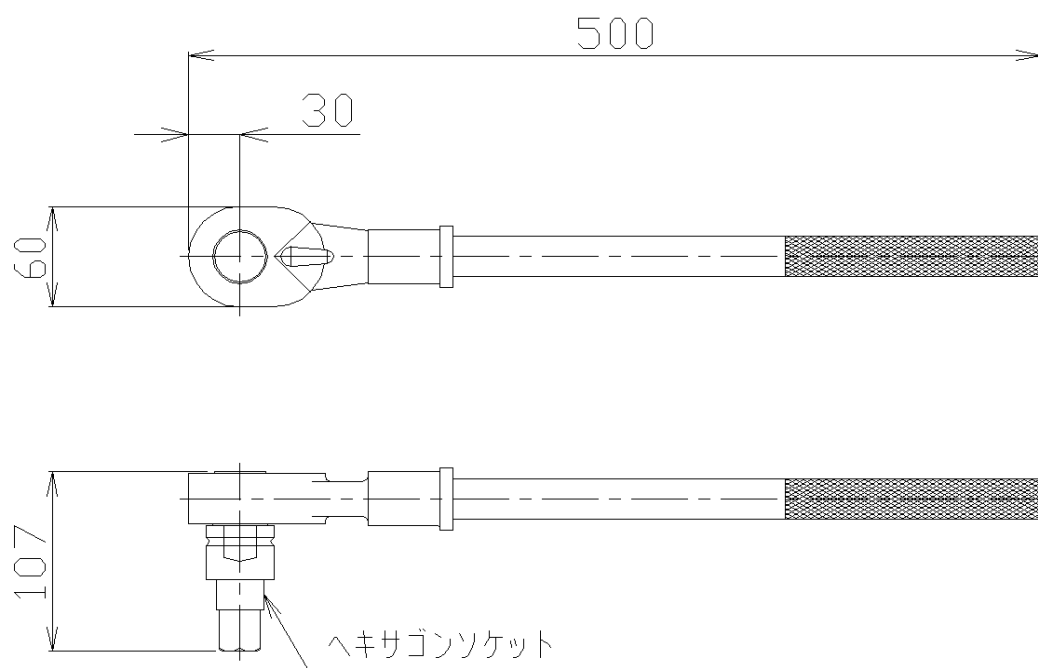


梁入れ後の再調整は、連動する柱を
同時に調整してください。

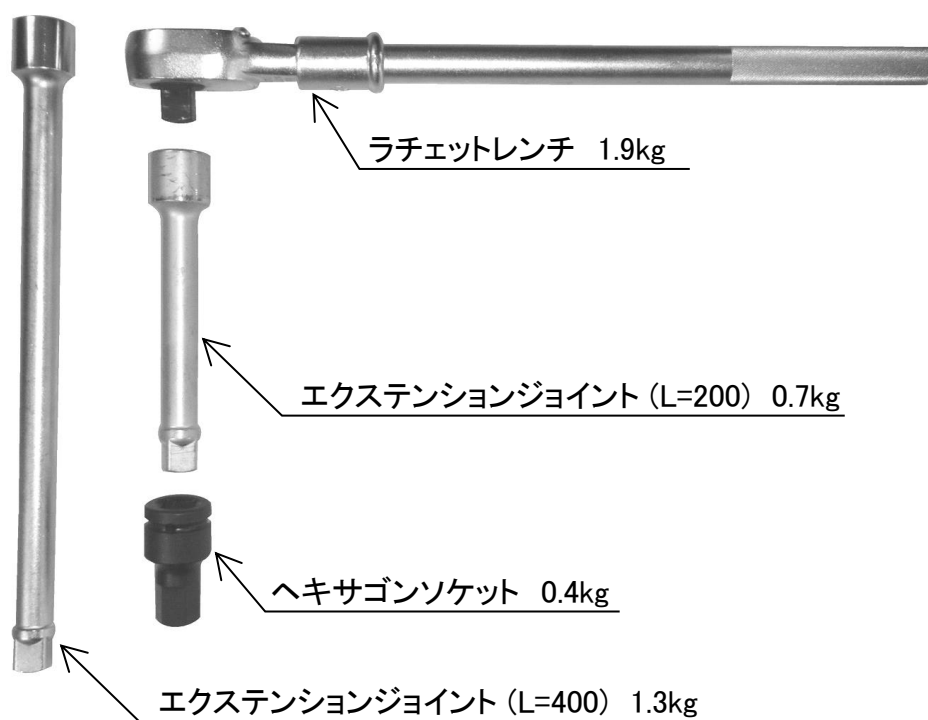
建方ベース用専用工具(片面)

1ノッチ:約15°

通常



箱抜きが200mm以上ある場合

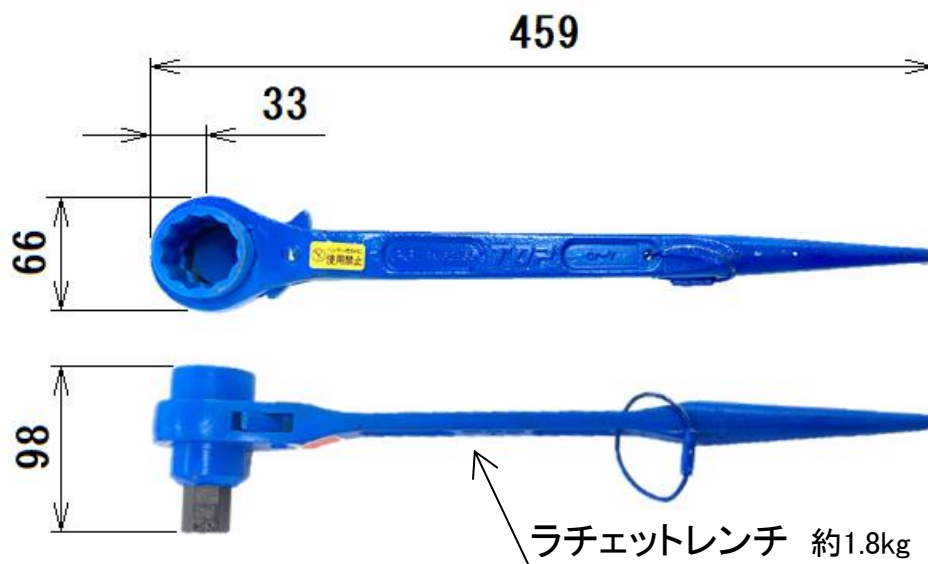


建方エース用専用工具(両面)

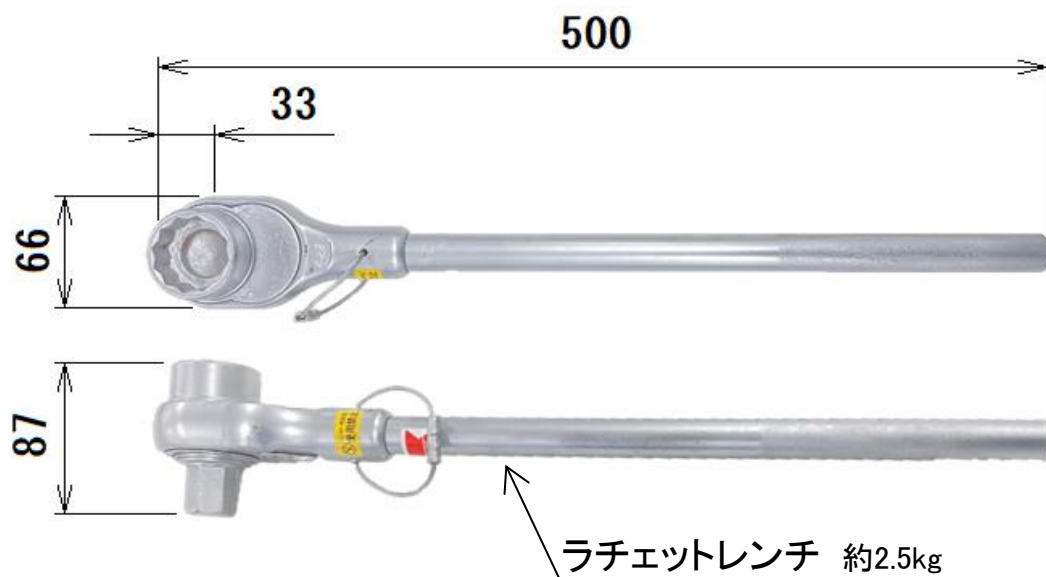
※建方ベース操作可能(エクステンションジョイント使用不可)

1ノッチ:約15°

新型専用工具



旧型専用工具



..... 御不明な点がございましたら、当社まで御連絡ください



テクノス 株式会社

建築仮設事業部

Web: <http://www.technos.info>

Email: eigyo1@technos.info

◆本社◆

〒442-0061

愛知県豊川市穂ノ原2-1

TEL: 0533- 84- 1116

FAX: 0533- 84- 1234

◆東京事業所◆

〒162-0824

東京都新宿区揚場町2番20号 嶋田ビル6F

TEL: 03- 5228- 5811

FAX: 03- 5228- 1182

.....